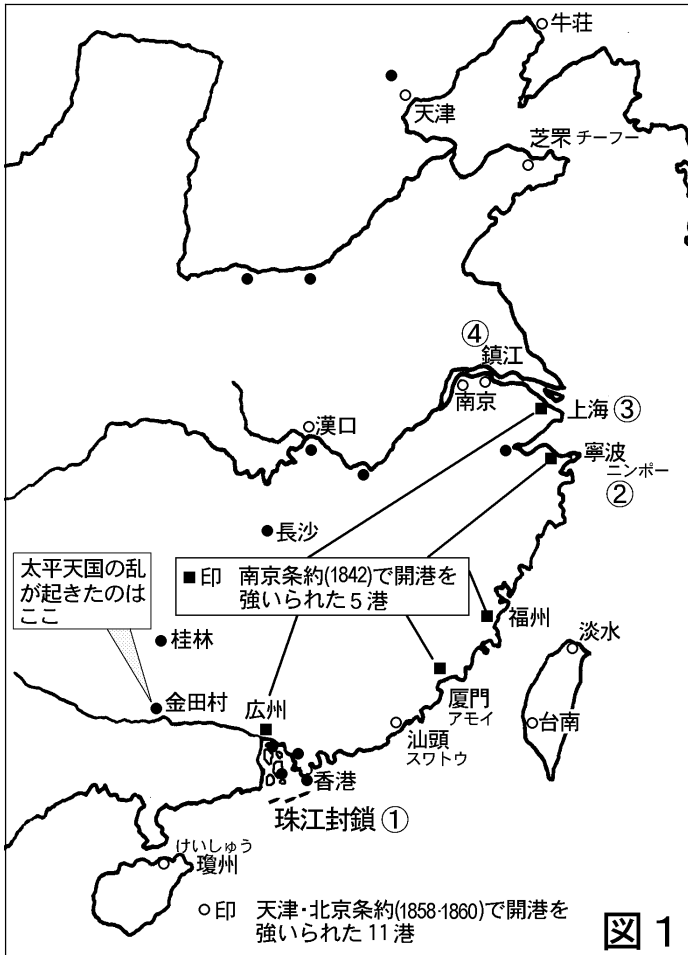


アヘン戦争

1) 【1:                   】(1840-42)は①珠江封鎖で始まり、イギリス軍が広東から②寧波、③上海、④鎮江を攻略、南京に迫ると、清朝は圧倒的な軍勢力を前に敗北を認めた。《①～④は図1に示した。詳細な戦闘経過は省略する》イギリス軍と果敢に戦った平英団の蜂起(1841)に見るように早くも民衆の抵抗が起きている。1842年、イギリスと【2:                   】を締結させられた。これは**非常に重要な条約**である。【2】及び以下の諸条約はアヘン貿易に触れていないが、この時**事実上公認**された。アヘン貿易の正式公認は天津条約(1858)である。



《アヘン戦争の結果》

南京条約(1842)の要点

- a 【3:                   】のイギリスへの割譲
- b 上海、寧波、福州、廈門、広州の開港
- c 【4:                   】の廃止
- d 賠償金の支払い 120万両+アヘン補償
- e 協定関税制を承認(=関税自主権の放棄)

1843.7 五港通商章程

- f 英に領事裁判権を認める(治外法権)※

1843.10虎門寨こもんさい追加条約

- g 輸出入税率・茶を除く関税は一律5%
- h 片務的最恵国待遇の承認
- i 開港場における土地租借と居住権の付与 ※1  
(これは後に租界に発展する)

1844年、同内容の条約をアメリカ、フランスとも締結。

- 米と…【5:                   】
- 仏と…【6:                   】

- j 英・仏に片務的最恵国待遇、領事裁判権を認め、
- k 関税率を条約で定める(関税自主権がない)。

五港通商章程は南京条約の補足条約  
虎門寨追加条約は南京条約の追加条約  
これらは南京条約と一体となって典型的な不平等条約を成し、欧米列強の中国進出の契機となった。

※1 イギリスは1845年に最初の租界(外国が行政権を持つ区域)を上海に設け、それ以降開港場には租界が増加した。

上図で■印は南京条約で開港した広州を含む5港(広州では公行貿易が行われてきた)。

○印は天津・北京条約(1858・60)で開港を強いられた11港である。

2) 一般に不平等条約とは相手国に対し協定関税制、領事裁判権、片務的最恵国待遇を認めることである。協定関税制を認めることを「関税自主権がない」、領事裁判権を認めることを「治外法権がある」と表現する。

《外交用語の説明》以下の説明でわかりにくければ、A=イギリス、B=清朝、Cはその他列強と読み替えよう。

最恵国待遇……締約国たるA国・B国のうち、B国が締約外のC国に対してA国・B国間で締結した条件よりも有利な条件を認めた場合、その条項は自動的にA国に対しても適用される。A国・B国間で相互にそのようにする相互的最恵国待遇は現代ではありうるが、B国のみがそれを認容する義務を迫る例が大半で、これをB国はA国に対して「片務的最恵国待遇を認めた」と表現する。

領事裁判権……締約国たるA国・B国間において、A国の国民がB国の主権下で行った犯罪を、B国の司法制度に委ねることなく、B国に駐在するA国の領事の裁判権に服せしめるという制度。これをB国はA国に対して「治外法権を認めた」と表現する。希に双務的な場合もあるが、大半は片務的でB国の国民がA国の主権下で犯罪を行うとA国の司法制度が容赦なく裁く。なお、領事裁判権とはフェーズが異なるが、現代の日米地位協定では「公務中の米軍人」が犯した犯罪の第一次裁判権はアメリカ合衆国にある。

「条約に関税率を書き込む」……関税とは外国の商品が国内に運び込まれる時に課せられる税で、収益の他に国内産業を保護する役割を持ち、主権国家は自由な判断で品目・税率を決める。これも大半は片務的で、締約国たるA国・B国間において、B国の関税率を両国間の条約で決める。これをB国には「関税自主権がない」と表現する。B国は、A国の進んだ安価な工業製品の洪水のような輸出攻勢に対して無防備となる。

3) 驚いたことに、清朝は1842年の時点では敗戦や不平等条約の影響についてさして深刻にとらえていなかった。しかし、清朝に自由貿易を強いたイギリスは、イギリスの工業製品の輸出が思ったほど伸びないことを深刻に捉え新たな戦争を準備しはじめていた。

**アロー戦争** 1856-60 = 「第二次アヘン戦争」とも言う 「アロー号戦争」は試験では×

- 1) 南京条約(1842)以降も、イギリスは中国市場で期待したほどの利益をあげることができなかった。そこで、更に有利な条件を求めて再度の侵略戦争をたくらんだ。アロー号事件は口実にすぎない。
- 2) 【7:    】(1856.10)とは、広州港外に停泊中のイギリス船籍を主張する小帆船アロー号の中国人クルーが海賊容疑で逮捕され、同船が清朝の官憲に臨検されたとき国旗が侮辱されたときイギリスが主張した事件。
- 3) イギリスは華南への進出をねらうフランスと共同出兵した。フランスの口実は、宣教師が殺害された事件(清に抗議中)であった。
- 4) 英仏両軍は、1856年いわゆる【8:    】(第二次アヘン戦争)を始め、広州、ついで、天津を占領した。10K全期間を通じて**太平天国の乱**(1851-64)と同時進行である。1858年、【9:    】を結ばせて停戦。皇帝は**咸豊帝**(位1850-61)であった。08J

- 天津条約 (1858)
- a 外国公使の北京駐在
  - b キリスト教布教の自由
  - c 外国人の中国内地旅行の自由
  - d 開港場の増加(10港)と自由貿易
  - e 英仏への賠償金の支払い600万両  
(北京条約で800万両にアップ)
  - f **アヘン貿易の公認**  
(厳密には条約外の文書による)

天津条約は清朝内部に反対論が多かった。  
f は厳密には天津条約自体ではなく、この条約による関税率改定により、**アヘンの輸入が公認化**された。

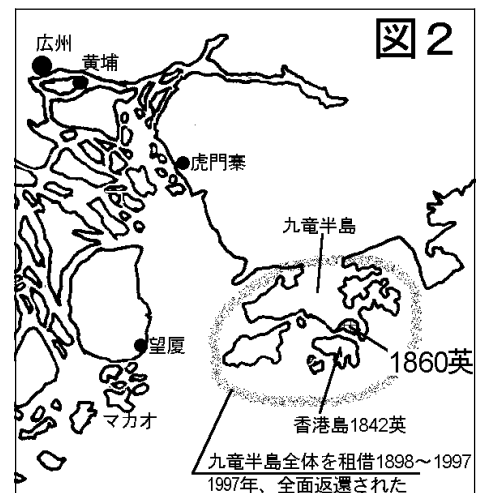
南京条約(1842)はアヘン貿易に触れていないが、事実上公認。  
キリスト教布教の自由を認めたことから各地に**仇教運動** きゅうきょううんどうが起きた。

- 5) ところが、1859年、清は天津条約の批准書を運んできた船を砲撃、批准交換を拒否した。このため、英仏軍は戦闘再開。1860年 英仏軍は北京を占領。ロシア公使ニコライ=【10:    】(ムラヴィヨフではない)の調停で、北京条約が結ばれた。  
このとき、有名な【11:    】(18世紀に造営、バロック様式・中国様式の融合。カステリオーネ)が破壊・略奪された。「四庫全書」(清代、7セット中の1つ)も焼失。紫禁城や北京市街ではなく、**円明園を破壊したのは何故**だろう?

- 北京条約(1860)
- g 天津条約の批准交換
  - h 【12:    】の開港 北京条約なのに天津!  
天津条約の10港と合わせて計11港
  - i 賠償金を800万両に引き上げ
  - j 【13:    】の南部をイギリスに割譲。香港島(1842割譲)の対岸。  
(図2の「1860英」の部分 ※2)
  - k 長江航行の自由

一括して「北京・天津条約」と表現される場合もある。

17~19世紀の露清国境画定条約については、No.153にまとめてある。



- 6) イギリスが九龍半島地方でしたことをまとめよう。  
1842年 【14:    】を割譲させた。(南京条約)  
1860年 香港島の対岸にあたる九龍半島の一部を割譲させた。(北京条約)  
1898年 **九龍半島全体**を99年間租借した。  
1997年 中華人民共和国に対し、九龍半島を返還し、割譲地については譲渡※3した。

※3 香港島と対岸の一部は英に割譲されていたので返還できず、譲渡するしかなかった。  
返還後50年間は、この地域の資本主義体制が維持される(一国二制度)ことが中英間で約束された。なお、1941-45年は日本の占領下にあった。  
2014年、香港特別行政区の長官の選挙制度をめぐる「制限なしの普通選挙」を求める学生や香港市民は、中国の香港政策に反対して、大規模なデモや中心部の幹線道路を封鎖するなど激しい行動に出た。

- 7) 清朝は、1861年、アロー戦争(1856-60)後、外国公使の北京駐在に対応するため外務事務をあつかう【15:    】(そうりかっこくじむがもん「総理衙門」または「総署」とも呼ぶ)を設置して、対等な外国の存在を認める外交をはじめた。この機関は1901年、北京議定書で外務部と改称された。ちなみに、総理各国事務衙門設置以前は、外交の仕事は「夷務(いむ)」と呼ばれていた。古来中国歴代王朝は、中国人以外の人間を野蛮人と見なしていた。

**2015 早稲田大学 2/22 一般 社会科 抜粋 改変**

正解 a

- 問4 19世紀半ばごろの中国に対するアメリカ合衆国の対外政策に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。
- a. アヘン戦争後、清と望厦条約を締結し、最恵国待遇や領事裁判権を認めさせた。
  - b. アロー戦争後、清とアイグン条約を締結し、清に外国公使の北京駐在などを認めさせた。
  - c. 清と虎門寨追加条約を締結し、他の列強に先駆けて上海に最初の租界を設置した。
  - d. 清と北京条約を締結し、清と英仏との講和を調停した見返りとして沿海州を獲得した。
  - e. 太平天国の乱においては、日本やロシアなどとともに出兵し、清朝を援護した。